



Echo No.152
平成31年春彼岸

院寺寺
峰福林禪
* * * *
羽村臨済会

「平」和は「成」つたのか

平成という時代が終わろうとしています。中国の古典「史記」から、平成という元号を引いて三十年。時の政府は「平らになる」「平和になる」という文字に願いを込めて、平成という元号を採用しました。それから三十年、果たして額面通りに平和はやつてきたのでしょうか。平成はその前の昭和に比べて、少しほまん時代だったのでしょうか。

誰れでも平和に暮らしたい、平穏な日常を送りたいと思っています。戦争や災害のない世界であつて欲しいと思つていません。それでは例えば、隣の家の子は東大に合格し、自分の子は引き込もり、隣は家を新築し、自分は失業して家を売り払わざるを得ないとします。それでもあなたは心の平和を保てますか。この世の不条理、理不尽さに、腹を立てませんか。人は人、自分は自分と割り切つて、他人の幸せを祝福することができますか。少しでも嫉妬心がある限り、心の平和はやつてしません。家庭の平和も世界の平和も同じことです。世界の平和を叫ぶより、心の平和を保つことの方が難しいのです。

心の平和の大切さを伝えるため、近年日本からも鈴木大拙をはじめ、多くの仏教者が海を渡りました。異教徒に仏陀の教えを説き、仏教信者もできました。しかししながら、いまだ世界は平和とは言えません。独善的な無神論者や一神教の狂信者が、手前勝手な論理で、この地球を牛耳ろうとしているからです。慈悲心のない損得勘定だけの独裁者ほど、危険なものはありません。

日本も偉そうなことは言えません。子どもを虐待する親、善人をだます詐欺師、イジメに犯奔する若者、責任を取らない人、利益至上主義の企業。これらは平成の三十年に目立つてきたことです。仏陀が一切の苦の根源だと説いた自己愛の為せる姿です。

戦争のない状態が平和なのではなく、他の幸福を願う「菩薩として生きる」人々が地上に溢れた時、本当の平和がやってくるのだと思います。まだまだ時間がかかりそうです。

(禪福 泰文)

白隱禪師坐禅和讃を 読んでみる その十五

この時何をかもとむべき
寂滅現前するゆえに
当處すなわち蓮華国
この身すなわち仏なり

(白隱禪師坐禅和讃より抜粋)

(意訳)

「この上何を求めるのか。悟りの世界はすでに皆の目の前に広がっている。自分のいる場所が極楽なのであり、自身そのものが仏ではないか。」

◇寂滅(じやくめつ)

死ぬことを寂滅とも言いますが、ここでは涅槃、仏教の目指す悟りの世界のことをしていています。

禪の涅槃(悟り)とは

仏教や禪における涅槃、つまり悟りの世界はどういう世界なのでしょう

か。悟りを開く。何か言葉では言い表わすことができない不思議な力が自分自身に舞い降りて来るのか。空中浮遊できるようになるのか。百五十歳まで元気でいられるのか。未来を予知できるようにならるのか。残念ながら禪の悟りといふものは、そういう類いの非現実的な不思議な力を得るというものでないのです。仏教や禪の教えというのは、ある意味では非常に現実的なものです。

悟りと覚り

悟りは覚りとも書きます。つまり「目覚め」のことです。目覚めるということは、自分を取り囲んでいる世界が変わると自身そのものが仏ではないか。」

さ、毎日顔を合わせていた家族の存在の尊さ、自分自身がしっかりと生きていることの素晴らしさに気づく(目覚める)ということでしょうか。

禅の世界に「春に花あり、秋に月あり、夏に涼風あり、冬に雪あり、もし閑事の心頭にかかるなくんば、すなわちはれ人間の好時節」という言葉があります。あれやこれやとつまらぬ事を心に煩うことがなければ、春夏秋冬、季節を選ばず、年中が人間にとつて好い季節である。という意味の言葉です。我々が社会の中で生きていく以上は、いくらかの不運や心配事がつきまとこともあるでしょう。しかしながら、春の麗らかな陽気に出会つたり、ご家族皆様で過ごす時間があつたり、仲の良い友人たちと過ごす甘美な時間があることも確かです。日常の中の素晴らしい時間をしみじみと味わうことができるのであれば、そここそが涅槃なのです。

(宗禪寺 高井和正)

人が奇跡の復活を果たしてみると、毎年当たり前のように見ていた桜の花の美しさ

禅と共に歩んだ先人

まつ お ば しょう 松尾芭蕉 XII

臨済禪と接し、その精神性や美意識に感化される事により、自分自身を高め、偉大な功績を残した先人達を紹介するという趣旨で進めていこうというこの項ですが、前回に引き続き江戸時代前期に生き、日本の俳諧（俳句）を芸術的域にまで高め大成させた「俳聖」とも呼ばれる「松尾芭蕉」についてお話をさせていただきたいと思います。

「おくのほそ道」5

芭蕉の残した紀行文の中でも、最も著名なものといえるのが、この「おくのほそ道」です。前回までこの作中の句を観ていきながら、その作風の変化をお話しできました。

旅の始めにあたり詠まれた句と、最後の句はどちらも「別れ」を題材としたもので、そこには大きな作風の違いがあります。

りました（前回参照）。この旅を通じて、芭蕉にどういった心境の変化があつたのでしょうか？

以前「蕉風」（芭蕉の作風）において「不易流行」という重要な価値感があるとお話しました（松尾芭蕉IX）。「不易」とは永遠不変の事。「流行」とは変わりゆく事です。我々は変わりゆくもの中で生きていますが、視点を大きくもてば、変わりゆく事実そのものが日常であり不変なのだという価値観です。宇宙的視点ともいえる壮大なスケールを持つ句を出羽（山形）から越後（新潟）の旅において残していく、それを我々に伝えています

うつてかわって、その後の旅では「別れ」がテーマとなつたかの様に多くの別れを芭蕉は体験し、句に詠んでいきます。では「不易流行」はやめてしまつたのでしょうか？ そうではなく、宇宙的視点から人間を、自分自身を観て、句を詠んでいるのだと考えます。人生において「別れ」はつきものです。旅においては毎日が「別れ」の連続でしよう。この「おくのほそ道」に「月日は百代の過客にして行きかふ年も又旅人也」という序文を残した芭蕉も「人生別れ」という思いを強く持つていたのだと思います。その「別れ」をことさら嘆き悲しむのではなく、「これもまた人生」という風にとらえ、受け入れていく。これが芭蕉のこの旅においてたどり着いた「かるみ」という境地なのです。それがこの旅の最初の句と最後の句にあらわされているのです。

ここで唐の詩人 干武陵の詩と、井伏鱒二の訳を紹介します。（後半のみ）

花発多風雨 花発けば風雨多し
人生足別離 人生 別離足る

ハナニアラシノタトヘモアルゾ
「サヨナラ」ダケガ人生ダ

以下次号（一峰 義紹）



禅寺雑記帳

ません。会からの連絡もすべてネットを介して行われ、郵便物が送られるることはありません。

◆登録は指定された日時に、本人自身が指定のお寺へ行つて担当の僧と会わなければならず、代理人では受け付けられません。また事前登録をネットで行う必要があります。ボランティアなのでいつでも行つている訳ではありません。事前登録は、先着順で締め切られます。一度登

◆私たちの宗派、臨済宗の僧侶がボランティアで運営する『吉縁会』という組織があります。いわゆる婚活を支援するもので、入会金や年会費、成婚費用などは一切掛かりません。これまでに一万八千人以上の会員がいて、八百組以上の結婚が成立しているそうです。

◆会の当日は、和菓子作り、坐禅、精進

料理つくり、数珠作りなど毎回異なる体験を皆で行つた後、異性の参加者と五分ずつの談話をしていく、という流れになつていて、この実費（三千円程度）のみが自己負担になります。

◆参加にはまず登録が必要です。登録の資格は、二十五歳から四十五歳までの男女で、インターネット、メールが使える事が条件になります。パソコンが無くても、スマートフォンが使えば問題あり



吉縁会

きち
えん
かい

東京・静岡西・名古屋・岐阜
大分・仙台・京都北にて開催中！

お寺やお坊さん曰く、「今の時代に何ができるのか」を真剣に考え、臨済宗の若手のお坊さん曰く「ボランティアで運営しております」。

過去の
実績

延べ会員数
17,000名超
※報告いただいた数のみ

はじめての方は、登録会場にて
会員登録を行ってください
www.kitien.com

吉縁会 検索

申込料金はお寺やお坊さんのホームページをご確認下さい。
会員登録を行って下さい。
詳報は、チラシ・会員登録用ホームページをご覧ください。

④ 新規登録料金：25歳～45歳の独身男女

⑤ 登録料：無料

⑥ 会員登録料金はお寺やお坊さんのホームページをご確認下さい。
会員登録を行って下さい。
詳報は、チラシ・会員登録用ホームページをご覧ください。

⑦ 吉縁会当日は会員登録（実費）が必要です。

⑧ 開催日程・会員登録日程などは裏面をご覧ください。

◆次回東京地区的登録日は三月三十一日、事前のネットでの予約締切は三月二十九日となっています。興味のある方は『吉縁会』で検索してホームページで詳細を確認下さい。すべてはそこに掲載されています。それを理解出来る事も参加資格の筈です。まずは一步を踏み出してみましょう。

（禅林 恭山）

ご質問は
こちらまで
吉縁会本部 (静岡県浜松市 蘭香寺内)

吉縁会 検索 または 053-415-8656